

コラム ISO TC35/SC14（塗料およびワニス/鋼構造物の塗装仕様）への取組

ISO/TC35 は塗料およびワニスに関する ISO 内の技術委員会で、その中の分科会に SC14（鋼構造物の塗装仕様）があります。この委員会への日本における国内委員会（委員長：田邊弘往氏）は（一財）日本塗料工業会により運営されています。SC14 の対象とする分野は、土木鋼構造物の防食塗装系にも関連することから、国内委員会には土木研究所からも委員として参加しているところです。

ISO/TC35/SC14 が標準化を担っている重要な規格の一つに、ISO1294 シリーズがあります。この規格は、防食塗装系による鋼構造物の防食であり、Part 1 から 8 まで、総則、環境区分、設計の考え方、素地調整の種類、防食塗装系、性能評価試験法、塗装作業の施工と品質管理、新設・維持管理のための仕様の開発から成り立っています。現行の ISO 12944 シリーズは 1998 年に制定されており、制定後 15 年以上を経過したことから改訂を行うことが ISO/TC35/SC14 により決定され、現在その改訂作業が進行しているところです。

主な改訂内容は、現在は使われなくなった古い塗装系の削除、ISO 9223 (ISO/TC156) により従来 5 段階に分類されていた環境区分 (C1～C5) に、2012 年の改訂でより厳しい区分 (CX) の追加されたことへの対応などです。日本からは、新しい塗装系として、ふっ素樹脂系塗料を含む塗装系を規格の中に盛り込むなどの提案を行い、採択されるに至りました。この塗装系は重防食塗装系として日本国内の鋼橋塗装などの広く使われ始めているもので、土木研究所から規格に盛り込むよう積極的に提案すべきとの意見を国内委員会に提出したこと、また特に根拠となるデータとして 30 年にわたる駿河湾沖での長期暴露試験による耐久性データなどの基礎資料を SC14 国際委員会に提供したことが、規格への採択につながったものと考えられます。引き続き、各国からの様々な意見・提案に対する日本としての意見が国内委員会で審議され、ISO/TC35/SC14 に提案する作業が進められています。



図-1 ISO/TC35/SC14 国内委員会の様子